

第3回世界水フォーラム 「アジア・太平洋の日」セッション

研究第四部 主任研究員 平田 顕三



1. はじめに

第3回世界水フォーラムが平成15年3月16日から23日に京都・滋賀・大阪を結んで開催された。その中で18日は、地域の日のうち、「アジア・太平洋の日」と設定され、アジア・太平洋地域の水に関わる様々な問題提起やそれらの解決手法に関する討議が交わされた。本稿では、「アジア・太平洋の水問題は世界の水問題と異なるか？」をテーマに、アジア・太平洋の日に京都宝ヶ池プリンスホテルにてセッションが開催され、アジア地域の特性を踏まえた水への取り組みが各国から集まった学識者の中で情報及び意見交換され、これらの概要を報告する。

2. アジア・太平洋の日セッションプログラムの概要

本セッションのプログラムとして、①基調講演では、日本の海田氏よりアジアでの水資源（農業での展開）について発表され、②発表1では、アジア・太平洋地域における水及び水問題の特徴について、フィリピン・タイ・日本より4事例、③発表2では、アジア・太平洋地域に都市化や流域開発における水問題への対処事例について、オーストラリア・インドネシア・日本より4事例が紹介された。その後、④パネルディスカッションとして、世界の水問題やその対処方策の比較について、アジア・太平洋地域における水問題の特徴やこれに対する今後の対応方針を、都市や農地のあり方、地下水利用等に着目しつつ、タイ・中国・韓国・日本・オーストラリアの各国の事例を基に熱心に討議された。



写真一 会場風景

3. セッションの成果

セッションにおいて、発表者及びパネリスト、さらには会場からの質疑等も踏まえて、以下の提言を示した。

【課題】 アジア・太平洋地域は山岳／火山とその流出域である沖積／洪積平野が生活の基盤であり、山岳地帯、洪水

氾濫原まで人間活動が及び、沖積平野では都市人口の増大により、常襲的な浸水、水環境の悪化、用水不足などに悩んでいる。また、水質汚染により、灌漑用水や飲料水が脅かされている。水問題には大きな地域性が内在するが、従来の水問題は欧米主導で議論が進められてきたこともあり、欧米や彼らと歴史的に縁が深いアフリカ・中近東などの乾燥・半乾燥地に関わる"Too little water"problem（水不足）の課題が中心であった。しかし、アジア・太平洋地域では"Too little water"problemに加えて、"Too much water"problem（洪水問題）を抱えている。国際赤十字社のまとめによると、73年から97年までで洪水による被害者は年平均約6600万人で、地震や干ばつなどを含む自然災害の中でも最も多い。同様に、大幅な分水が行われ、調整されることにより、将来の水供給が脅かされ、川辺の環境が衰退している流域もある。

【行動】 ここ数十年、日本のイニシアティブの下、アジア・太平洋地域を対象に水文・水資源分野で様々な国際共同研究プロジェクトや研究交流活動が行われている。また、実務の面では、それよりはるか前からODA等を通じて種々の海外技術協力事業が進められてきた。しかし、“アジア・太平洋地域における水文と水管理”として体系的に問題を捉え、組織的、継続的に学術・技術交流を行う場はなかった。このような現状を踏まえ、本セッションでは、アジア・太平洋地域に特有な気候条件と土地条件、治水・利水、環境などの情報を収集し、欧米型ではない当地域の水問題及びこれへの対応について世界に発信していくことを目的として議論した。

【提言】 今後、アジア・太平洋地域においては、アジア・太平洋地域の水に関わる特性を踏まえたデータの蓄積と評価・予測のしくみの開発や総合的管理の提案による知識の向上を図り、政策への提言を備え、技術開発を支援することが必要である。

さらに、これらの実現に向けては、アジア・太平洋地域の各国や専門家がそれぞれの立場での取り組みを強化するとともに、アジア共通の課題として情報交換や研究交流を通じた連携・協働、及びこれを支える「アジア・太平洋水文水資源協会」などのネットワークの役割が重要である。

4. おわりに

年度末の多忙な時期にも関わらず、世界水フォーラムの会場には、世界各国から多くの人々が集い、様々な議論の場で、多くの事項について活発な意見交換や情報交換がなされた。我々にとって、水は生命を維持していく上で不可欠であり、もっと多くの人々が水に関心を持ち、その水のことを考えるきっかけとして、世界水フォーラムは大きな成果を挙げていると考えられる。今後も継続的に開催され、その度毎により多くの人々が水のことを考える機会を得ることで、未来に貴重な財産である水を守り伝える大きな原動力となることを期待したい。